

稲川小児童が協力 ジオパーク弁当「進化」

あすから販売 地元商店とコラボ



湯沢市川連町の稲川小学校(佐藤俊介校長、217人)の児童が、地元の弁当店「やまりん商店」とコラボし「稲川っこ スペシャルジオパーク弁当」を開発した。児童が育てたカボチャやあきたこまちを提供し、考案したおかずを詰め込んだ。あす 15 日から

要予約で販売する。29 日までの期間限定。



やまりん商店は 6 年前から、ゆざわジオパークの魅力を表現した弁当を販売。小安峡で見られる地層「三途川層」をイメージした卵焼きや、皆瀬で見つかったナウマンゾウの化石に着想を得た骨付きウインナーが入っている。子ども向けも作ろうと、稲川小にコラボを提案。昨夏からジオパーク弁当をベースに開発を進めてきた。

児童が考案したおかずは、校内の畑で育てたカボチャを使ったコロケ、角切りにしたサツマイモが入ったおにぎり、ダイコンなどの野菜を使った洋風炒めなど。

全学年が弁当開発に携わり、メニューの企画案や弁当名の候補、掛け紙、ポスターのデザインなどを学年ごとに担当した。6 年の麻生寛太君は「みんなで心を込めて作ったのでたくさんの人に食べてほしい」、5 年の安藤優衣さんは「弁当をきっかけに湯沢のジオパークに来てもらいたい」と話す。やまりん商店の佐藤恭子さん(53)は「元々あるジオパーク弁当が、子どもたちの発想でさらにパワーアップした」と話している。1 個 1100 円で、購入日の 2 日前までに注文する。

問い合わせはやまりん商店 ☎ 0183・42・3509

(舘岡朋美)

令和 6 年 2 月 1 4 日 (水) 秋田魁新聞より一部抜粋)